

令和7年度
江戸川区学校応援団
実践報告書

【中学校】

令和8年3月
江戸川区教育委員会

目 次

小松川中学校	• • • • • • • • • •	P 1
小松川第二中学校	• • • • • • • • • •	P 3
松江第一中学校	• • • • • • • • • •	P 5
松江第二中学校	• • • • • • • • • •	P 7
松江第三中学校	• • • • • • • • • •	P 9
松江第四中学校	• • • • • • • • • •	P11
松江第五中学校	• • • • • • • • • •	P13
松江第六中学校	• • • • • • • • • •	P15
二之江中学校	• • • • • • • • • •	P17
葛西中学校	• • • • • • • • • •	P19
葛西第二中学校	• • • • • • • • • •	P21
葛西第三中学校	• • • • • • • • • •	P23
南葛西中学校	• • • • • • • • • •	P25
南葛西第二中学校	• • • • • • • • • •	P27
西葛西中学校	• • • • • • • • • •	P29
東葛西中学校	• • • • • • • • • •	P31
清新第一中学校	• • • • • • • • • •	P33
清新第二中学校	• • • • • • • • • •	P35
瑞江中学校	• • • • • • • • • •	P37
瑞江第二中学校	• • • • • • • • • •	P39
瑞江第三中学校	• • • • • • • • • •	P41
春江中学校	• • • • • • • • • •	P43
鹿本中学校	• • • • • • • • • •	P45
鹿骨中学校	• • • • • • • • • •	P47
篠崎中学校	• • • • • • • • • •	P49
篠崎第二中学校	• • • • • • • • • •	P51
小岩第一中学校	• • • • • • • • • •	P53
小岩第二中学校	• • • • • • • • • •	P55
小岩第三中学校	• • • • • • • • • •	P57
小岩第四中学校	• • • • • • • • • •	P60
小岩第五中学校	• • • • • • • • • •	P62
上一色中学校	• • • • • • • • • •	P64

小松川中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川中学校統括校長 折橋 信二
コーディネーター 鹿倉 勇

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	14人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備	不定期	14人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は開校3年目となり、校内の環境整備も落ち着きました。日頃から多くのPTAや学校応援団、ボランティアの方々に支えられながら、生徒の安心安全な環境づくりや、学校行事の円滑な運営にご協力いただきました。本校は小松川第一中学校と小松川第三中学校が統合してできた学校であり、二校の歴史が展示、保管されているメモリアルルームがあります。学校応援団や両校の卒業生、地域のボランティアの方にはメモリアルルームの整理や整備を担っていただきました。また、「学校、保護者、地域がひとつとなって学校運営をしている」と実感することができていることが一番の成果だと考えています。

<課 題>

地域にお住まいの方々を新しい学校としてどのような方にご協力をいただくか、統合前に協力いただいていた方々の世代交代など、人員を今後どのように確保していくかも大きな課題である。

5 コーディネーターより

小松川中学校の学校評議員兼コーディネーターを務めさせていただいております。地元の間として、学校、家庭、地域をつないできました。昨年度は多くの方のご協力により、小松川中学校を無事に開校することができました。小松川・平井地区の未来を担う生徒の皆さんが、生き活きと学校生活を送っている姿を見ると、大変うれしく思います。

学校応援団コーディネーターとして「やれることから」をスローガンに活動していきたいと考えています。生徒、PTA、各町会、地域の事業所などと協力し、小松川・平井地区にある学校として、小松川中学校を影ながらサポートできたらと考えています。

6 学校長より

今年度の卒業生は統合初年度に入学した生徒たちであり、小松川中学校の新しい歴史を創ってきた生徒たちでもあります。我々教職員も考え深い思いで今年度の卒業式を迎えます。今年度も引き続き、時代の流れや社会の変化に対応し、生徒・保護者・地域の方々の願いを受け止め、生徒第一主義の学区づくりを行います。この伝統部会小松川・平井地区で健全に育つ子どもたちを、地域の方々と一体となって熱く、温かく育てていきたいと考えております。

本校では、地域に根差す学校としてボランティア活動を推進しております。小松川平井地区大運動会、社会を明るくする運動、小松川平井地区マラソン大会など、多くの生徒たちがボランティアに積極的に参加しています。

ボランティアを通して、本校の生徒がさらに小松川・平井の地域や本校を愛し、地域に貢献することのできる大人へと成長することを願ってやみません。

小松川第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第二中学校長 星谷 雅俊
コーディネーター 村上 則俊

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	60人
	学生ボランティア	30人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校行事協力	不定期	60人
環境整備	不定期	30人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

毎年、本校の教育活動全般を学校応援団活動によりバックアップしていただいています。その中でも本校の二大行事である運動会、文化祭等の大きな行事の運営に御尽力いただいています。今年度も運動会、文化祭合唱コンクールの部を保護者の閲覧人数制限なしに閲覧いただき、応援団の方々にもご協力いただくことができました。文化祭合唱コンクールの部では、今年度から本校体育館で実施をしたため、地域の方のご協力なしには実現できませんでした。また、今年度も「花いっぱい運動」に当選し、学校応援団のご協力を得て、チューリップなど多くの球根を植樹する予定でいます。教育活動へのご協力、誠にありがとうございます。

<課 題>

学校応援団の活動の多くをまだまだ学校の教員やP T A本部役員の方々をお願いしており、多大な御負担をおかけしています。「花いっぱい運動」へのご協力も含め、より多くの方々に学校応援団活動を知っていただくため、さらなる広報活動を行う必要があると考えます。

5 コーディネーターより

学校行事の運営や校内外の環境美化など、生徒の安心安全のための活動を充実させることができました。そして、学校運営に貢献することができました。今後もさらに多くの方々に御協力いただくため、機会を見て宣伝や勧誘を行い、いろいろな分野で学校の教育活動を応援していきたいと考えております。

6 学校長より

本校の教育目標である、「生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校」の実現のため、本校の教育活動に御協力、御尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

今年度も学校応援団の皆様の御協力を得て、充実した教育活動を行うことができました。今後も引き続き御支援、御協力をよろしく願いいたします。

松江第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

校長 瀬戸 完一
 コーディネーター 中里 義雄

2 ボランティア登録数(令和7年12月1日現在)

学校応援団 ボランティア数	一般ボランティア	60人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
行事支援(蓮の植え)	1学期(不定期、今年度は4/29)	40人
行事支援(蓮の収穫祭)	2学期(不定期、今年度は11/22)	60人
蓮田の管理支援	毎週(不定期)	1人
図書館支援	毎週水曜日を基本とする	20人

【保護者・PTA・家庭】

- ・図書室整備・放課後開室
- ・運動会・合唱コン受付
- ・学校公開受付
- ・地域パトロール

蓮の植え 蓮の収穫祭

【地域町会の方々】

- 【松江会(同窓会)】
- 【学校評議員】
- ・五校協議会
- ・夏季地域パトロール
- ・地域行事(お祭り、運動会等)

【学校】

- ・職場体験
- ・学校行事
- ・小中連携



4 今年度の成果と課題

<成 果>

・今年も学校応援団、PTA、地域、松江会（PTA の OB 組織）と協力して、蓮池の維持管理と種植え、収穫祭の行事を無事実施することができた。蓮田の作業は重労働であり、経年による泥の入れ替えも実施したが、生徒会本部役員や交流委員会、有志生徒の協力のもと学校応援団の方々も多数参加して、盛況のうち終わることができた。蓮田が地域の方々と現役生徒・OBOG と世代を超えてつなぐ架け橋となっていっていることを実感できた。

・保護者の方による学校図書館ボランティア活動が組織され13年目となった。学校の行事や時程の連絡を担当の方から連絡をとりながら、なるべく多くの日数で開館することができた。

<課 題>

- ・各種活動の広報・周知活動を充実させ、より多くの方々にご協力いただくこと。
- ・学校応援団の安定した人員の確保をすること。

5 コーディネーターより

コーディネーター14年目になります。今年度も「蓮の種植え」「収穫祭」を、盛況のうちに実施することができました。学校評議員、PTA、地域の方、松江会のご支援、さらにボランティアの皆さんの協力のもと4月29日（火）昭和の日に蓮植え、11月22日（土）に蓮の収穫祭を実施しました。今年度は約40kgの蓮を収穫することができました。来年度も引き続き実施していきたいと思えます。また、保護者のご協力による学校図書館ボランティア活動も定着し、毎週水曜日に図書室が開室されています。これからも学校評議員、PTA、地域の方、松江会の方々とは協力して、松江一中のためにできることに積極的に取り組んでいきたいと思えます。

6 校長より

本校では、学校応援団発足以前より学校評議員、PTA、地域の方、松江会をはじめ多くの方から様々なご支援をいただけてきました。その中で特に地域の方、PTA、学校をつなぐ大切な要となっているのは蓮田関連の行事です。生徒たちには江戸川区の特産品であった蓮を身近に感じてもらいたいとの思いから、松江会のたゆまぬご協力をいただき脈々と引き継がれてきました。この活動は今後も継続していくことでしょう。子どもたちが地域に見守られ育っていく姿、地域・保護者・学校が共に子どもたちを見守る姿は、我が国の郷土を愛する心を育てる教育のモデルケースとなり得るでしょう。この松江地区には、その土壌が育まれております。今後とも本校の教育活動にご理解とご協力のほどをよろしく願います。

松江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第二中学校長 鈴木 啓之
コーディネーター 関 和典

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	14人
	学生ボランティア	50人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	毎月1回 月曜日 8:00~	各14人
花壇づくり	6月20日(金) 16:15~17:00	20人
花壇づくり	11月15日(土) 10:00~12:00	20人
道路クリーンアッププロジェクト(落ち葉はき)	12月上旬 不定期	30人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年の学校応援団の活動は、毎月1回のあいさつ運動と、春・秋の花壇づくり、そして道路クリーンアッププロジェクト（落ち葉はき）の協働作業を実施しました。

あいさつ運動は、PTA役員や保護者の皆様と一緒に実施しました。地域の方々や保護者の方々の温かい声掛けにより、生徒たちは松二魂である「挨拶」を再認識する場となり、明るく笑顔で登校することができました。朝の登校時に、学校応援団の皆様が足を運んでいただくことで、さわやかな挨拶を交わして一日をスタートすることができ、生徒の学校生活に活気が出る同時に、地域の皆様とのつながりを感じる場にもなりました。

花壇づくりは、学校応援団の方々や生徒達がそれぞれ4グループに分かれて行いました。パンジーやシクラメン、チューリップ、スノーポールなどの花々を花壇に植え、学校応援団の方や生徒が相談しながら花の配置を考えたり、土を耕したりしました。会話を交わしながら活動することで、松江二中の歴史を知ることができたり、地域のことを知ることができたりして、とても良い交流になりました。

道路クリーンアッププロジェクト（落ち葉はき）は生徒会とコラボして行いました。生徒と応援団の皆様により、学校周辺の落ち葉を掃き、道路をきれいにすることができました。

学校応援団の皆様と交流を深めながら一緒にできる活動があることは、健全育成の貴重な機会であると思います。今後もこのような機会を増やし、継続していきたいと思っています。

<課 題>

学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てるために、より多くの生徒や地域のボランティアを募ることが、今後の課題です。

5 コーディネーターより

松江第二中学校学校応援団コーディネーターの関です。今年は、朝のあいさつ運動で大きな声を出して挨拶ができ、生徒たちの元気な声を聴くことができました。

6月と11月の花壇づくりは、季節に応じたチューリップやパンジーなど八種類の球根や苗を準備していただきました。副校長先生や顧問の先生、外部指導員をはじめ、生徒会役員、ボランティア部員の参加、協力により、約2時間わきあいあいと花植えができました。学校応援団員は、今後の開花を楽しみにしています。

今年度も3年生の面接練習、茶道教室が中止となりましたが、このような応援団の活動に関わった子供たちの成長していく姿を見るのがとても嬉しく思います。今後とも良い学校づくりに携わっていききたいと思います。

6 学校長より

松江第二中学校学校応援団は、学校、家庭、地域が一体となり、地域ぐるみで子供を育てる体制を整備することを目的として、平成23年度に結成されました。コーディネーターの関さんを中心に、あいさつ運動や花壇づくりを実施しました。学校応援団の方々や生徒と一緒に活動することは、健全育成を促す上でとても貴重な体験となります。今後も、学校応援団の方々のご協力をいただきながら、より多くの活動を行っていききたいと思います。

松江第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第三中学校長 小澤 託
 コーディネーター 上野 康雄

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	0人
	学生ボランティア	20人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登下校の見守り	不定期	10人
行事支援(体育祭受付等)	5月24日(土)	18人
行事支援(合唱コン受付)	10月21日(火)	20人
校庭落ち葉拾い	12月	40人

<地域防災>

毎年消防署の方を招き、保護者や地域の方々に参加していただく訓練です。今年度は初期消火体験、煙体験をおこないました。火災時の初期消火や煙から身を守る方法、対応方法、また防災について考える良い機会となっています。また、令和4年度に東四町会から寄贈していただいた防災用ヘルメットを収納するケースを購入しました。今後も有効に活用していきます。来年度も、学校応援団を含めた地域の方々にたくさん参加し、体験して頂けたらと思います。



<性教育講演会>

まつしま病院ユースウエルネル kukuna の室長幸崎さん、助産師飯田さんを講師としてお招きし、思春期を迎えた生徒たちが、性に関する理解を深めることで、自分自身と他者を尊重する態度や性に関する現代社会の実態を知り、自分を守る行動やすべを養うことをわかりやすく講演していただきました。保護者や地域の方も参観しました。



4 今年度の成果と課題

<成 果>

○今まで取り組んでいた花壇と菜園は、地域の方や園芸関係者の方から手ほどきを受け、徐々に成果を出していくことが課題でしたが、来年度からは花壇の整備に力を入れ、取り組みたいと思います。来年度は校庭の植栽に花壇を設け、花いっぱい为学校をお見せすることができるようにしていきます。

○今年度も、中央地域祭りをはじめ、区民まつり、地域夏祭りや大運動会等において多くの生徒が進んでボランティア活動に参加しました。

<課 題>

○学校応援団をはじめ、OBの方々は、お仕事をもちつつ学校への協力ということでお忙しい時間のやりくりをしていただいております。その中で学校、生徒たちのために効果的な新しい取り組みについて様々な可能性を考えていきたいと思っております。

5 コーディネーターより

○これまで学校応援団として、祭礼パトロール、三中フェスティバルへの協力、菜園の定期的な管理などをしてきました。平成30年度に東京都教育委員会より学校活動支援団体に対する感謝状をいただくことができました。校長先生からは「何かあった時に助けてくれる学校応援団でいてください」という言葉をいただいておりますので、これからも松江三中の生徒たちを見守り、学校からの要請があればいつでも協力できる体制を整えています。

今後も活動内容を工夫しながら「松江三中の生徒たちに見てもらえ、参加してもらえ」活動を目指していきたいと思っております。

6 学校長より

今年度も体育祭や合唱コンクール、修学旅行や林間学校、1年生のエコプロ、2年生のチャレンジ・ザ・ドリームを実施してきました。さらに地域のお祭りや大運動会、区民まつり等のボランティア活動に生徒が参加することができました。学校応援団の方には、本校の教育活動を様々な側面からご支援いただきながら、生徒たちを地域で見守っていただくとともに、貴重なご意見もいただきました。

常に思うことですが、ほとんどの応援団の皆様がお仕事を持っていらっしゃる中にもかかわらず、いつも松江三中のためにと気をかけていただいております。本当に頭の下がる思いです。これからも生徒たちのために、本校の教育活動にご協力いただきながら、「何かあった時に助けてもらえる学校応援団」でいていただけるよう、心よりお願い申し上げます。

松江第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第四中学校長 鶴澤 伸一
コーディネーター 富永 秀樹

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	12人
	学生ボランティア	0人

※生徒ボランティア471名

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
園芸整備	不定期	10人
校内池整備	不定期	10人
四中ステージ	10月	12名
清掃活動	12月	全校生徒



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本校用務主事、教師、ボランティア生徒が協力して、校門付近の花壇の整備や清掃活動を行いました。公道を含む学校周辺の清掃活動に熱心に取り組む生徒の姿は、地域でも高い評価を受けています。特に清掃活動は、全校生徒が学校周辺の美化に集中的に取り組んでおり、生徒たちの自尊感情を育むとともに、地域との間接的な交流機会となっております。また今年度も、正面玄関口にある池のメダカの飼育をボランティア生徒の活動として行いました。池の清掃も含むこの飼育活動により、自分の責務を全うする責任感の育成にもつながっています。

更に10月には、学校応援団・PTAの協力により「四中ステージ」(ボランティア生徒を中心とする発表会)を行うことができました。生徒に限らず、保護者や地域の皆様、学校関係者にもご参観いただくことができました。

<課 題>

毎年、多くのボランティア生徒が地域行事や祭りの運営を手伝っています。学校応援団や地域の皆様と、そうしたボランティア生徒が一体となって活動できる機会を計画的に設けていくことが今後の課題です。

5 コーディネーターより

学校の教育活動が充実するよう、PTAや地域の皆様のご協力を得て本年度も学校の応援活動を行いました。今後も関係する皆様と力を合わせて子どもたちを見守り、育てていくという方針の下、多くの保護者・地域の皆様からのご理解とご協力をいただきながら、生徒の成長につながる活動を進めてまいります。ボランティア活動に積極的に取り組む生徒が多いので、地域行事と有機的に結びつけることに次年度以降特に注力していきたいと考えています。

6 学校長より

日頃より学校応援団の皆様の活動には心よりお礼申し上げます。これまで積み重ねてきた伝統を受け継ぐことができるのも、関係する多くの皆様のご支援のお陰です。今年度は花壇や池の整備に加え、四中ステージでのボランティア活動も行うことができました。生徒にとっては貴重な経験を積むことができる機会となっております、お陰様で成長の一助となっております。

今後も応援くださいますようお願いいたします。

松江第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

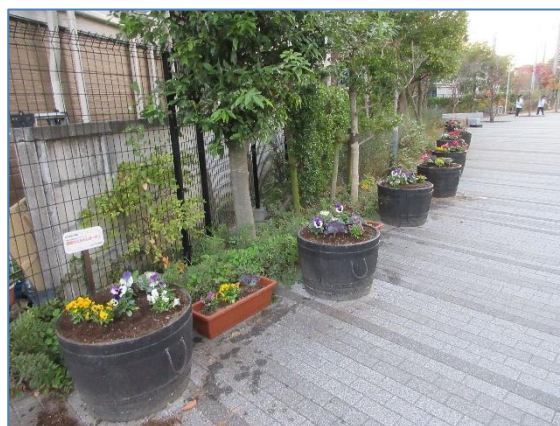
松江第五中学校長 岡田 隆平
 コーディネーター 牧島 孝行

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	38人
	学生ボランティア	人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館の充実	○月1回	4名
地域貢献活動	○不定期	生徒80名 応援団3名
夢を育む講演会	○年1回 令和8年3月12日(木) 講師 本名 陽子 様 (声優、女優、歌手、ナレーター) 映画『耳をすませば』 主人公：月島 雫 役 主題歌『カントリー・ロード』歌	12名



4 今年度の成果と課題

<成 果>

学校図書館の充実では、ボランティアとして地域の方に手伝っていただき、新規購入本の整備等を行っていただいています。毎年、学校として本を購入しています。その整備や整理整頓をボランティアの皆さんが主導のもとで行っています。今年度は、図書委員会の活動において、本の貸し出しや返却をスムーズに行っており、図書室の活性化が進んでいます。

地域貢献活動では、今年度も、生徒からボランティアを募り、様々な活動を実施しました。特に本校の正門から昇降口が続くウェルカムガーデンでは、花の鉢植え・整備が定着し、来校者の気持ちを和ませてくれています。今年は20名ほどの生徒で行いました。また、冬休みには校内清掃ボランティアとして、60名近くの生徒たちが参加し、普段はなかなかできない箇所の清掃にじっくり取り組みました。奉仕の気持ちをもつ生徒が増えています。

夢を育む講演会では、映画『耳をすませば』の主演声優で、その主題歌『カントリー・ロード』の歌手である本名陽子様を講師に迎えました。学校応援団たちばなの皆様が、生徒たちの生き方に対する考えを学び、将来に生かせる機会をつくる目的で企画しました。保護者の皆様にも限られたスペースではありましたが、参観していただきました。

<課 題>

夢を育む講演会は毎年の行事でとても好評です。この講演会は生徒たちに計り知れない効果があると確信しています。今後も継続していきたいと考えています。

地域貢献活動では、地域の祭りやジュニア訪問員等、ボランティア活動に積極的に参加する生徒が年々増えています。ウェルカムガーデンでの花を植える活動により、学校がとても明るくなります。校内のほかの場所でも、そのような活動が行えるよう準備を整えます。今後、更に多くの生徒が地域に貢献できれば良いと考えています。

5 コーディネーターより

学校応援団の活動として特に力を入れたのは『地域貢献活動』です。地域の小学校、中学校そして高等学校が連携を図りながら地域の人々と関わっていくことはとても意義のあることだと考えます。今年度も中央・一之江ふるさとまつりが実施され、生徒たちは来場者として楽しむだけでなく、運営ボランティアとしても大いに活躍してくれました。

地域で暮らす人たちを結びつけて地域を活性化させるために、この活動をこれからも続けられるよう様々な機会を設けていきたいと思えます。私は松江第五中学校の卒業生でもあり、母校の後輩でもある地域の子供たちの活躍を大いに期待しています。松江第五中学校を拠点として、地域のきずなが強く太いものになることを願っています。

6 学校長より

本校の特色ある教育の1つに『たちばなマインドの推進』があります。“たちばなマインド”というキーワードを合言葉にして、自らの良さを集団や社会の中で生かそうとする自主的な実践活動の推進です。各町会では『たちばなマインド』がより浸透し、多くの生徒が地域の中で活躍できるようになりました。これからも地域の皆様の期待に応えるために、学校応援団のお力添えをいただきながら生徒一人一人の成長と松江五中のさらなる発展を図ってまいります。これからも本校へのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

松江第六中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第六中学校長 小野満 賢
コーディネーター 平田 光男

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備	不定期	10人
花植え運動	不定期	5人
朝のあいさつ運動	毎朝	1人
六中まつり	不定期	20人
五町会防災訓練	不定期	5人



六中まつりの様子



朝のあいさつ運動

4 今年度の成果と課題

<成 果>

主な活動は、環境整備として校門近くの花壇の花植え、シンボルの池の掃除、そして朝のあいさつ運動、六中まつり・五町会防災訓練の手伝いでした。令和5年に地域の声によって修復された池には、現在多様な生物が戻ってきており、科学部が中心となって保全に努めています。10月の六中まつりは、あいにくの雨天で、ほぼ経験のない校舎内での実施となりましたが、さまざまな工夫や臨機に対応によって会場を整えました。地域の小学生が大勢来校し、昨年度に引き続き大盛況となりました。12月の五町会防災訓練・避難訓練も冷たい雨の中での開催となりました。災害は時間も天候も選べないということや、地域の方々の危機管理意識の高さから、大勢の町会の方々が参加して実施することができました。六中まつりや防災訓練でも生徒のボランティアが活動しましたが、日頃の地域のお祭りや運動会等で地域の方々や応援団の方々と顔を合わせているため、多くの方から中学生が声を掛けられ、充実した活動ができていました。

<課 題>

今年度は多くの場面で地域や応援団の方とボランティアに応募した生徒と一緒に活動する機会があったので、顔の見える関係が構築できました。来年度以降、これまでの取り組みを引き継いでいくためにも、六中まつりや五町会防災訓練の実施に向けて、生徒が学校応援団や地域の方とより一層触れ合いながら取り組める内容について検討することが必要です。また、ボランティアに参加する生徒がやや固定化しており、3年生が卒業を機に抜けてしまった後を引き継ぐことが困難になってしまう可能性もあります。部活動と折り合いを付けながら、ボランティアに参加する生徒のすそ野を広げていく工夫も必要です。

5 コーディネーターより

学校応援団のコーディネーターとして、今年はほぼコロナ前の行事を開催することができました。環境活動として花壇の花植えや池の掃除、五町会防災訓練、六中まつりをともに開催できたことが応援団として今年の大きな成果でした。しかし、コロナ以前に比べると中学生の参加人数は減ってきているのかなという印象をもちます。今後も工夫しながら、魅力のある行事を行い、参加してくれる中学生を増やしていきたいと思えます。

子どもたちは将来地域を支える大切な人材です。今後も学校応援団の活動を通して、松江第六中学校を支援してまいりたいと思っております。

6 学校長より

将来の地域の担い手の育成ということで、例年、学校応援団の皆様には松江六中の教育環境の整備を行っていただくとともに、地域の行事にも本校ボランティア生徒を参加させていただくなど、学校と地域の橋渡しを積極的に行っていただいております。学校の環境整備と朝のあいさつ運動を中心に活動を行っていただくとともに、五町会合災訓練・六中まつりへ生徒ボランティアが参加して一緒に活動することができました。また、学校行事についても以前のようにご招待できるようになり、学校の様子をご参観いただいております。今後も引き続き本校へのご支援・ご指導をよろしく願いいたします。

二之江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

二之江中学校長 千野 裕司
 コーディネーター 桐井 義則

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
二之江中を愛し育てる会	標語の顕彰（各学期1回） タグラグビー教室 7組（毎学期）、各学年（学期ごと） 防犯カメラの管理・運用	18人
花のある学校づくり	栽培活動（不定期）	2人
模擬面接練習	3年生全員対象（12月の2日間）	10人



タグラグビー教室
(クボタスピアーズ後援)



3年生全員対象 模擬面接練習



二之江中を愛し育てる会標語の懸垂幕

4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 二之江中を愛し育てる会が行う標語活動は、各学期でテーマが設定され、生徒一人一人に考えさせるというものである。この取組は、ものや人を大切にしようという心を育み、生徒の落ち着いた行動につながっている。
- 防犯カメラが、区が設置したもの以外に3か所（各4台）に設置されていることで、子供たちの通学路がより安全な環境になっている。また、令和8年1月から最新のカメラになり、より鮮明な映像で確認できるようになることは大変ありがたいことである
- 敷地が広いため、花壇のスペースも多い。それぞれの花壇で季節ごとに花が咲き、生徒や保護者の目を楽しませている。
- 毎年、地域の方（民生児童委員）に御協力いただき、3年生全員を対象とした模擬面接練習を実施している。今年度は、学校応援団の皆さんに御協力いただき、より本番に近い形で実施することができた。生徒にとって、緊張感のある練習は、とても効果的で入試に対する意識も高まった。

<課 題>

- 現在、次年度から本格実施のコミュニティスクール化に向けて、この二之江中を愛し育てる会を含め、学校、家庭、地域をどうつなげ、それぞれの強みを生かしていけるかを環境整備している。これまで培ったノウハウも生かし、より学校が支援していただけるようにしていきたい。

5 コーディネーターより

私は、学校・家庭・地域社会の三者の役割分担と密接な連携のもと、「子どもたちのために大人は何ができるのか？」これが教育の原点と考えております。このことを念頭に置き、皆様が諸活動にかかわりやすい環境づくりをし、三者の橋渡しができるように努めていきたいと思っております。今年度は、学校運営協議会の委員長として学校に訪問する機会も多くあり、より二之江中の先生や生徒の様子を見ることができました。引き続き、中学校を応援するため、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

6 学校長より

学校応援団活動以前より、二之江中には「二之江中を愛し育てる会」、PTAのOB会である「三江会」という絶大な応援団が存在しています。現在もお組織がしっかりと機能し、学校の教育活動に様々な形でご支援、ご協力、ご理解を得ているところです。また学校応援団としての中心的な役割を担っていただいています。組織を維持させ成長させていただいていることは本当に心強く感じています。学校としてもその支えに報いるためにも全教職員が一丸となってよりよい学校づくりに邁進していきたいと考えています。今後も各団体の特徴を生かした活動を続けていただき、コーディネーターを中心に学校・家庭・地域の更なる結びつきが強くなるよう願っています。

本校の学校応援団の活動は、多くの皆様のご理解・ご協力により順調に活動しています。今後とも、子どもたちのかけがえのない中学校生活3年間がより充実したものとなるよう、学校応援団の皆様の支援をよろしくお願いいたします。

葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西中学校長 荒巻 淳
コーディネーター 土田 知美

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	25人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
防災ボランティア	8月30日	15名ほど
図書館整理ボランティア	週1回(毎週水曜日)	10名ほど
図書館清掃ボランティア	7月25日、12月26日 3月7日	各回 10名ほど



防災ボランティア



図書館清掃ボランティア

4 今年度の成果と課題

<成 果>

○学校応援団の活動は、例年通り「図書館整理ボランティア」「図書館清掃ボランティア」「防災ボランティア」を実施することができました。特に「防災ボランティア」は昨年度の課題を踏まえ、さらに参加者が意欲的に参加できる内容に発展させることができました。「図書館清掃ボランティア」は学校応援団のメンバーも運営の仕方に慣れ、スムーズに実施することができました。学校図書館が使いやすく、大変きれいに整理されているのは、学校応援団の賜物であります。継続した活動の成果により、併設小学校の LAS が、今年度東京都教育委員会より表彰を受けました。次年度以降も、同様に実施できたらと考えています。

<課 題>

○「図書館清掃ボランティア」に関しては、参加する生徒ボランティアの数も増加し、昨年度以上に活動は円滑になっています。どちらかという課題は、参加する生徒が固定化されないよう、多くの生徒が参加できるようにすることだと思います。

5 コーディネーターより

- 年間を通して、大きな問題もなく、教職員や生徒と協力し活動できたことは有意義なことでした。特に「防災ボランティア」におきましては、かまどベンチを使って炊き出しを行い、一緒に非常食であるわかめごはんを食べることができたことは素晴らしい経験になりました。この活動は、地域の皆様にも貢献できたと考えています。
- 学校応援団の活動のさらなる推進のため、より多くの人に参加し関われるよう、活動を広げていく視点で、発信方法をさらに工夫していきたいと思っております。

6 学校長より

○学校応援団コーディネーターの土田様をはじめ、「防災ボランティア」「図書館清掃ボランティア」の活動に携わった学校応援団の方々に、常日頃の活動について深く感謝申し上げます。「防災ボランティア」の方々のおかげで、学校の「防災教育」を昨年よりさらに充実したものにすることができました。また、「図書館清掃ボランティア」の皆様のおかげで、生徒が気持ちよく図書館を利用することができております。皆様のお力添えで学校の円滑な運営ができております。今後とも、生徒の健全育成のためにご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第二中学 校長 植木 清
コーディネーター 福島 剛

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	18人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
校内花いっぱい運動打合せ	学期1回	5
校内花いっぱい運動	学期1回	16



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本年度は、校舎改築に伴う仮設校舎での学校生活が続く中、生徒が前向きに学校生活を送ることができるよう、学校応援団の方々と連携し、校内花いっぱい運動を中心とした活動を実施した。

第1回は6月に実施し、暑さの厳しい時期ではあったが、多くの生徒が参加し、夏らしい季節を感じさせる花の苗を植えた。生徒は汗を流しながらも意欲的に活動に取り組み、校内環境を自らの手で整える経験を通して、学校への愛着を深めることができた。

第2回は10月に実施し、29日に行われた開校70周年記念式典に向けて、来校者を温かく迎えらるよう、特に昇降口周辺を華やかに飾ることを意識して植栽を行った。限られた人数ではあったが、一人一人が役割を意識し、式典にふさわしい学校環境づくりに貢献することができた。これらの活動を通して、生徒と地域、学校応援団とのつながりが一層深まり、学校行事と連動した取組として大きな成果を上げることができた。

<課 題>

一方で、実施時期によっては気候条件の影響を受けやすく、活動時間や作業内容に配慮が必要であることが課題として挙げられる。今後は、実施時期や作業内容をより計画的に検討し、安全面に十分配慮した活動運営を行っていく必要がある。また、活動内容や成果について、より多くの生徒や保護者、地域へ周知を図り、継続的な参加につなげていくことも今後の課題である。

5 コーディネーターより

本年度の活動は、多くの方々の温かいご理解とご協力により、生徒にとって実りある取組となりました。植栽活動を通して、生徒が学校や地域に愛着をもつ姿が見られたことは、大きな成果であると感じています。今後も、学校現場の状況に応じて活動内容を工夫しながら、学校・家庭・地域をつなぐ役割を果たしていきたいと考えています。引き続き、葛西第二中学校の教育活動へのご支援・ご協力をお願いいたします。

6 学校長より

学校応援団の活動を通して、PTAを中心とする保護者の皆様や、町会や地域の皆様、同窓会、PTA、OB会、卒業生といった多くの皆様に応援団協力者として教育活動へのご支援・ご協力をいただき、成果を上げてまいりました。学校応援団の皆様には、心より感謝申し上げます。

仮設校舎という制約のある環境においても、「緑豊かな施設」であり続け、生徒のために工夫を凝らした活動を継続していただき、大変心強く感じております。

当日は私も作業に参加させていただき、生徒たちの豊かな表情を見ることができました。これも皆様方のおかげであると心より感謝申し上げます。

今後も、地域とともに歩む学校づくりを進めてまいりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

葛西第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第三中学校長 金澤 栄治
 コーディネーター 安次富 宏行

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備活動	不定期	5人
行事・周年行事支援	不定期	7人
部活動支援	不定期	8人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度も、昨年に引き続き、毎学期実施している学校周辺のボランティア清掃、地域のボランティア活動、地域の防犯活動や防災訓練、祭礼、運動会等の体育的・文化的行事への参加など、様々な取り組みを行うことができました。教員だけでなく、地域の方々と共に奉仕活動に参加することにより、地域との連帯感、地域の方々に見守られている安心感、そして、奉仕の精神が育まれています。今後も、町会の行事や近隣の施設の奉仕活動などへの参加を、生徒会活動とも連動させながら呼びかけていきます。

生徒には地域の一員としていざというときに頼りになる存在として活躍できるよう、学校でも指導していますが、地域の皆様にも生徒の健全育成にご協力をお願いしています。

<課 題>

学校応援団は、地域の力を学校教育に生かす有意義な仕組みですが、運営面ではいくつかの課題があります。充実した活動ができてはいますが、活動してくださる方の人数の確保や、活動内容・役割の周知が十分とは言えず、関心はあっても参加に至らないこともあるようです。また、参加者との情報共有や日程調整に時間を要することもあり、円滑な運営に向け、工夫が必要です。今後は、活動の仕組みついて整理を進め、地域と学校が円滑に協働できる、持続可能な体制づくりが課題となります。

5 コーディネーターより

今年度もコーディネーターを引き受けさせていただきました。学校活動において、地域の皆様と学校をつなぐ架け橋として、子どもたちの学びや成長を支える活動を行っています。日頃より、多くのボランティアの方々に温かいご協力をいただき、心より感謝申し上げます。地域の力が学校教育をより豊かなものにし、子どもたちの安心と意欲につながっています。今後も学校と地域が手を取り合い、笑顔あふれる学校のために力を尽くします。引き続き、ご理解とご支援をよろしく願います。

6 学校長より

今年度も、学校応援団の方々に多大なるお力添えをいただき、教育活動の様々な面をサポートしていただきました。本当にありがとうございました。

令和7年度は、国立教育政策研究所教育課程実践検証協力校として、キャリア発達と学習意欲の向上を教育課題とし、学校行事をはじめ地域の様々な行事、ボランティア活動等への積極的な参加を行ってまいりました。生徒たちは進化・発展そして新たな伝統を創り上げようと、昨年度以上のもの、仲間との思い出に残るものとして主体的に活動し、本校の伝統を引き継ぐ活動が実施できました。今後も、地域や保護者の方々への学校公開や、生徒との交流する機会をさらに増やしていき、生徒たちの生き生きと活躍する様子をご覧いただけるよう努めてまいります。引き続き学校応援団へのご理解・ご協力をお願いいたします。

南葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西中学校長 日野 志磨子
 コーディネーター 八重樫 利雄

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	33人
	学生ボランティア	人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇・農園整備	不定期	20人
ふれあい面接	1月9日、1月13日	13人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本校は、地域の教育力を生かした教育活動を展開することを目指し、多くの保護者や地域住民の方に支えられながら学校運営を行っている。今年度も昨年度に引き続き、花壇や農園の整備をお願いした。花壇に植えられた花々が生徒の登下校を見守ってくれるとともに、学校に彩を添え、生徒や教職員の心の安らぎとなっている。

また、昨年度に引き続き、今年度も「地域ふれあい面接」を実施することができた。3年生を対象として2日間行い、受験の面接試験に向けて多くのアドバイスを受け、交流を深めながら自分の進路について向き合う機会となっている。また、地域の方々とふれあうことを通して、生徒は礼儀やコミュニケーション能力を高めることができ、充実した会となっている。

<課 題>

多くの学校応援団の方々に来校いただき、教育活動を支えていただいた。充実した活動になっているが、参加いただいている方々の健康面、特に猛暑の時期の活動は体調面も心配される。今後も活動を続けていくためには、新たなメンバーを募り、学校側も町会、自治会の方々との連携の強化、担当者を置くなどの工夫をすることが必要である。

5 コーディネーターより

南葛西中学校の学校応援団の活動は、多くの方々にご協力をいただき定着している。「地域ふれあい面接」や「花壇や農園の作業」に加え、かつては「図書館整備ボランティア」も行っており、地域と学校が一体となって生徒を見守ることができていた。

今年度も昨年度と同様に、花壇の整備とふれあい面接を実施することはうれしいことである。しかし、学校応援団として登録してくださっている方の高齢化が原因で減少傾向にあり、今後の活動が心配される。

今後も学校応援団として新しい形のボランティア活動も模索しながら、「地域とともに歩む南中」を実感することができる温かい関係を育めるよう、地域の子どもの成長を見守り続けていきたい。

6 学校長より

南葛西中学校は、学校応援団の方々をはじめ、これまで多くの地域の方々に支えられながら生徒の健全育成に取り組んで参りました。今年度は「地域ふれあい面接」そして「花壇や農園の整備」に取り組んでいただき感謝しております。ご多用の中、時間を割いて本校のために活動してくださるボランティアの皆様の取組と関わりによって、生徒一人一人に地域の一員として自覚し、伝統を継承していく担い手としての自負が芽生えてきています。今後ともご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

南葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

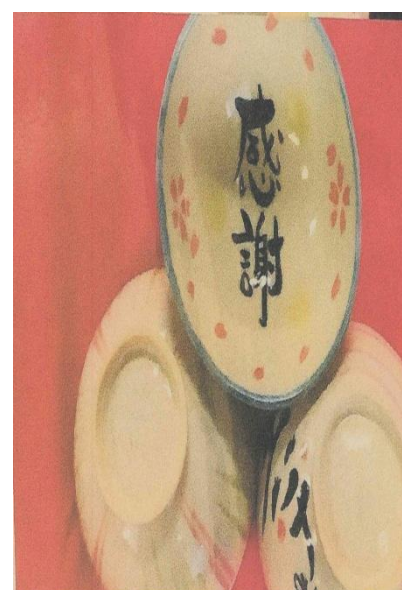
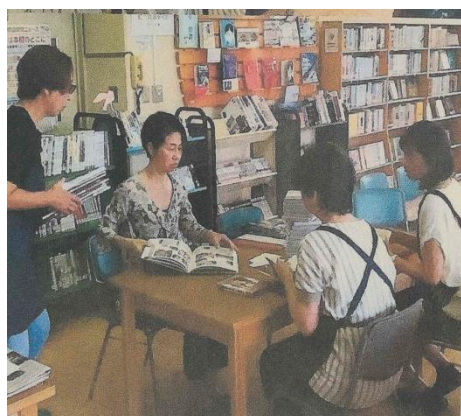
南葛西第二中学校長 古澤 浩一
コーディネーター 高島 由紀子

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	21人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書館	4日(不定期)	5名
家庭科(裁縫)	21日(不定期)	3名
美術科(陶芸)	授業3日(6時間)、準備等36日(120時間)	13名



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・陶芸は、13名で各クラス3回の授業の進行とサポートと、授業外での準備、焼き釜入れ窯出し等で、のべ36日120時間程度のご協力をいただいた。美術の授業だけでなく、放課後や別日に不登校生徒や別室利用の生徒対応の授業を設けていただき、多くの生徒が参加し、深い学びと充実した学習を行うことができた。
- ・家庭科被服授業では、裁縫作業の学習活動を補助していただき大変助かっている。教科担任1人では把握しづらい個々の生徒の活動進捗状況に合わせ、細かい支援をしていただいた。各生徒のニーズに合った授業展開ができ、有意義な時間を全生徒が過ごすことができた。
- ・図書は、図書室の整備全般や装飾などをしていただき、図書室の環境維持に貢献していただいた。

<課 題>

今年度も昨年度までと同様、陶芸の代表ボランティアの方が期間中連日朝から夜まで作業しており、ボランティアといえど負担が大きい。これは授業展開の3時間（3コマ）以外に、準備や片づけ等活動時間が非常に多いためである。実際、教育課程で扱うことを求められていない内容ではないことから、無理があるのも否めない。また、現在の形では、準備された陶芸の「体験」にとどまっており、1度経験した生徒たちが次年度以降、陶芸への興味関心をさらに深めたり、難易度を挙げて作品作りを臨んだりできないことも課題であると感じる。将来的には、「本格的に陶芸に興味関心を持った人材」＝「学校応援団の卵」を地域の中で育てていくことが大切である。放課後に有志で陶芸教室を設ける等、ボランティアの方にも負担のない形での継続を視野に入れて考えていく必要性を感じる。

5 コーディネーターより

今年度は、陶芸・図書・家庭科の3分野で学校応援団活動をしました。ボランティアの皆様方のご協力があったことで、改めてお礼を申し上げます。

陶芸では、不登校・別室登校の生徒たちも含め全員の「茶碗」が完成しました。また、美術の教科書には生徒の作品が掲載されました。十数年継続してきた成果が実り、陶芸チーフ共々大変嬉しく感じました。

図書では、夏休みに行った（生徒では手入れしにくい個所を重点的に）図書室内の清掃・ブックエンドを使った書架整理、季節ごとの装飾の補助などの活動をしました。これらを通して図書室の整備、美化を支援し読書環境を整える補助ができました。来年度も常に学校と連携を取り、応援団活動を継続していきたいと思っています。

6 学校長より

地域に根差した地域になくしてはならない「生徒に・保護者に・地域に・教職員に魅力ある」学校づくりの推進にあたっては、学校応援団の皆様との連携とそこへのご支援は必要不可欠です。

「江戸川区教育課題実践推進校」として、「魅力ある学校づくり」をテーマにした取組をすすめるにあたり、学校応援団の皆様方の生徒へのあたたかいご支援は、生徒の学びを豊かにするとともに、地域に生きる生徒にとって自身の将来像を意識するものとなったことと受け止めております。

学校応援団の皆様方の取組は、応援団の皆様のご家庭も交えてのご支援・ご協力をいただいていることを承知しており、常々恐縮しております。今後とも、地域の力を生かし、地域との連携をさらに深め、将来のコミュニティ・スクールの基盤のひとつとしても推進してまいりたいと考えます。

西葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

西葛西中学校長 川崎 純一
 コーディネーター 塙 正彦

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館ボランティア	毎週火・木曜日	10人
行事支援	不定期	10人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は学校の教育活動が通常通り実施することができた。昨年度4年ぶりに再開したPTA主催のもちつき大会は今年度も実施でき、多くの方にお手伝いをしていただいた。また、運動会、学芸発表会、学校公開等の各行事の際にはボランティアの方々には受付や会場整理等に関して支援していただきました。

図書ボランティアの方々による活動は、火曜日・木曜日の2日間、実施していただいた。書棚の掃除、整理整頓、本の修繕、新しく購入した本の受入れ、古くなった本の除籍などの図書館内の整備と、生徒向けの放課後開館業務を精力的に行っていた。

<課 題>

花壇・栽培ボランティアが今年度も実施できなかった。来年度の実施に向けて準備をするとともに、新たな活動も模索していきたい。

5 コーディネーターより

今年度は学校行事をはじめとして、学校の教育活動で、生徒の活動する様子をたくさん見ることができ、うれしく思いました。

図書ボランティアの活動に加えて学校行事の支援活動もできた。例年実施しているもちつき大会では昨年度よりも多くの生徒が参加し、とても和やかな時間を過ごすことができました。

ガーデニング部とタイアップして行う栽培ボランティア等の活動は、今年度も実施できなかったの由来年度は実施できればと思います。

毎年、図書ボランティアの活動が中心となっているので、来年度はもっと活動の場を広げられるようにしていきたいと思います。

6 学校長より

今年度は、運動会等の学校行事を通常通りに実施しました。当日の受付、自転車置き場や会場整理等で学校応援団の方々に関わっていただき、学校としては大変心強く感じました。12月には、もちつき大会も実施することができ、生徒たちの喜ぶ表情をたくさん見ることができました。

また、今年度も図書館ボランティアの方々には活動をしていただきました。図書館の蔵書管理や整備、生徒への貸し出しに関して、運営・管理がしっかりとできているのは、ボランティアの方々の献身的な活動のおかげです。

学校の教育活動は、教職員以外の方の支援が必要な場面が多々あります。学校応援団の方々の支援を今後もよろしく願います。

東葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

東葛西中学校長 山田 尚孝
コーディネーター 木下 真理子

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	56人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校農園管理	不定期	3人
美化活動（花壇の整備）	不定期	6人
英語検定の補助	年2回	28人
漢字検定の補助	年2回	19人

4 今年度の成果と課題

<成果>

学校農園について

地域の協力者の方に畑の管理を行っていただいています。今年度は、小松菜をはじめとする野菜の種まき・栽培・収穫を、ボランティアの生徒や部活動に所属する生徒が担当しました。収穫した野菜は、学校給食の食材として活用しています。

また、給食室の改修工事により給食提供ができなかった約3か月間は、「チャレンジ・ザ・ドリーム」で生徒がお世話になった保育園の園児を学校農園に招き、収穫体験を実施しました。そ

の際、本校のボランティア生徒が園児の活動を支援し、世代を超えた温かな交流が生まれました。

これらの活動を通して、生徒は地域とのつながりを実感するとともに、他者のために行動する喜びを学び、ボランティアマインドの醸成につながっています。

学校内の美化活動



地域の方々にご協力いただき、行事前等に花壇への花植えを実施しています。これらの活動により、学校内の環境が整えられ、校内全体が明るく華やかな雰囲気となっています。

☞学校応援団の方々が植えてくださった正門前の花々

英語検定・漢字検定

私立高校入試において内申点の加点対象となることから、英語検定では平均して 120 人以上、漢字検定では平均して 60 人以上の生徒が受検しています。実施にあたっては、毎回 P T A 役員の方々が保護者へ呼びかけを行い、多くの方に試験監督のボランティアとしてご協力いただいています。

その結果、検定を滞りなく実施することができており、毎回、多くの生徒が合格するなど、学習意欲の向上と学力定着につながっています。

<課 題>

本活動は教育的効果が高い一方で、農園管理や運営が特定の協力者や一部の生徒に依存しやすく、継続的な実施に向けた体制づくりが課題です

今後は、全校生徒へ参加機会の拡充を図るとともに、活動内容や成果を校内で共有する仕組みを整えていきます。

5 コーディネーターより

学校農園における収穫活動等では、生徒が主体的にボランティア活動に取り組んでおり、生徒のボランティアマインドの育成に大きく貢献しています。今後も、学校応援団の活動をさらに充実させ、地域や他者と関わる体験を通して、生徒の主体性や社会性の育成を図っていきます。

6 学校長より

学校農園や美化活動、各種検定の取組は、地域や保護者の皆様の温かなご支援により成り立っています。これらの活動を通して、生徒は学習面だけでなく、人とのつながりや社会の一員としての自覚を深めることができます。今後も地域と連携した教育活動を大切に、生徒一人一人の成長につながる学校づくりを進めてまいります。

清新第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第一中学校長 松木 千明
 コーディネーター 坂崎 勉

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	3人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
英語検定・漢字検定支援	各学期2回で年6回	13
特別支援学級書写(手本作成・指導)	不定期	2
花壇植栽・手入れ	通年(花植え年3回)	13

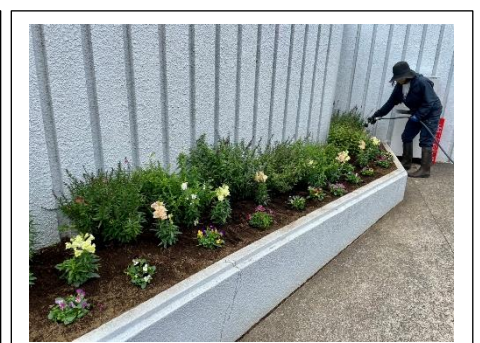
(検定の様子)



(書写の様子)



(花壇手入れの様子)



4 今年度の成果と課題

<成 果>

【検定支援】

学期ごとに漢字検定と英語検定をそれぞれ1回ずつ実施（年間計6回）。検定は平日の夕方授業後の時間帯に行っており、生徒にとって受験しやすい条件が揃っている。支援をお願いして今年で4年目を迎え、準備や試験監督、答案の確認、発送といった一連の手順をスムーズに行っていたいただいている。検定担当の先生との連携もとれており今年度も無事検定を実施できた。

【特別支援学級書写支援】

12月はカラー筆ペンを使用したクリスマスカードを作成するための授業準備と指導、1月は書初めのお手本準備と指導を実施。学校応援団員の方々は、書道に関する専門的な知識と経験をお持ちなので、書写の魅力を生徒に伝えて授業の向上に貢献していただいている。

【花壇植栽・手入れ】

正門前や玄関花壇の手入れを日常的に行い、運動会やロードレース大会、卒業式などの大きな行事前には花の植え替えを実施。これらの活動により、学校行事に彩りを添え、来校者や地域の皆様に明るい印象を持っていただき、学校の美化に大きく寄与していただいている。今年度は参加者も増え、手入れができる範囲の拡充および効率化が進み、仲間の輪も広がった。

<課 題>

学校応援団の活動を広く知ってもらい、その意義に賛同した人が新たに加わることが望ましく、そのためには学校応援団と学校側の風通しを良くして、学校側が望むことに対して応援団がどのような活動で寄り添えるかを模索し、互いに協力し合える関係を気づいていくことが重要となる。

5 コーディネーターより

今年度の活動として英語検定・漢字検定支援では、生徒が安心して挑戦できる学習環境づくりを応援し、特別支援学級での書写支援においては、学びの喜びや達成感を育むことを応援しています。さらに、花壇の植栽や日々の手入れを通して、学校全体の美化と地域とのつながりを支える活動をしております。

地域の皆さまのご理解とボランティア活動に参加されている方々の善意と行動力に、心から感謝申し上げます。

6 学校長より

今年度は、・検定支援・特別支援学級書写支援・花壇植栽、手入れの3つの活動を学校応援団の方々に活動していただきました。どの活動も、本校教職員だけでは実践できない活動にご協力いただいております。特に、花壇植栽の活動においては、今年度、活動を広げています。1年間、本当にありがとうございました。令和8年度も、よろしく願いいたします。」

清新第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第二中学校長 西原 大
 コーディネーター 諸隈 智映子

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	6人
	学生ボランティア	人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書室開放（放課後）	月1～2回 図書室の開放・見守り	3
英語検定 試験監督	検定時 試験監督	2
総合防災訓練	12月 総合防災訓練の手伝い	5
植栽	1月 空いている花壇への植栽	3



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は応援団の皆様と会合を開き、活動内容を大幅に見直した。生徒や教員をバックアップする内容として、放課後の図書室開放、検定の監督、総合防災訓練での炊き出しやその他の訓練の担当、空いている花壇の植栽を行った。生徒とのふれあいに重点を置いた活動により、一層、地域とのつながりが強くなったと感じている。教職員としても補助していただいたことで、人手不足解消や負担軽減にもつながった。今後、活動の幅や協力者を増やしていき、より充実した学校応援団の活動になるように、学校と応援団で協議していきたい。

<課 題>

人数や時間に課題がある。現在の加入者は仕事をしていたり、自分の自治会での仕事をもっていたりする方なので、どうしても活動時間に制限がある。また、急に仕事が入るケースもある。解消するためには、ある程度人数を増やし、その時に活動できる人材を確保していきたい。

5 コーディネーターより

学校の教育活動の充実を図るため、PTA 関係の方々、地域の方々のご協力を得て今年度も充実した活動支援をすることができました。生徒の生き生きとした姿を見ると、こちらの活力にもなります。メンバーが固定されてきていますので、応援してくださる方を増やしていきたいと考えています。お時間に余裕のある方はぜひ参加してみてください。

6 学校長より

今年度も学校応援団の方々、地域の方々、保護者の方々にご支援をいただきまして誠にありがとうございました。おかげさまで、今年度も予定された学校行事を無事に終えることができました。また、昨年度より生徒のボランティア活動が増加し、多くの生徒が地域で活躍してくれました。その活動を与え、支援してくださる地域の皆様に心から感謝申し上げます。

このような活動を含め、様々な面で学校と地域が一体となり、全体で生徒の健全育成に努めていければと思います。今後ともご協力のほどよろしく願いいたします。

瑞江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江中学校長 薦田 敏
コーディネーター 望月 一秀

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	2人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
生徒会購入の冷水器設置	今年度1回	2
学習発表会展示の部受付	年1回	5
生徒が取り組む植物育成 の見守り（稲作）	不定期	3
水泳指導補助の打合せ	年1回	2



4 今年度の成果と課題

<成 果>

学校応援団の活動も今年で15年目になりました。今年度は校内に冷水器を設置いたしましたが、その設置を学校応援団の方が行ってくれました。また、昨年度から本校では田んぼで稲を生育しています。その稲の生育状況を学校応援団の方が来校された際には確認していただき、アドバイスを学校にしてくれ助かっています。学校応援団のそれぞれの方々と学校との連携が深まり、開かれた学校づくり、生徒の健全育成の一助として大変助かっています。今後も生徒、教職員、PTA、地域の方々と一体となって、教育活動を推進していきたいと思っています。

<課 題>

- (1) 区の有償ボランティアの制度が充実しており、無償ボランティアである学校応援団の人材確保が難しくなっている。
- (2) 年度当初に計画的に必要な予算案を立て、予算を有効に活用していくことの必要性を感じる。

5 コーディネーターより

昨年度より瑞江中学校「学校応援団」代表（コーディネーター）を務めさせていただいております。我が子が在籍中はPTA会長として教育活動に関わり、昨年度からは学校応援団として瑞江中の教育活動を陰ながら応援しています。子供が卒業すると中学校との関わりもなかなか取りづらくなってしまいがちですが、現役の保護者やPTA顧問会の皆様とともに、いろいろな形で学校を支えていければと思います。

来年度は更に学校応援団として大きな応援の広がりを作り上げていきたいと思っています。益々のご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

6 学校長より

以前は学校の教員の時間も大きく使って進めていた部分を、学校応援団の方が替わって担ってくださっています。土曜日に行われる学習発表会展示の部で受付をしてくださることは、学校の働き方改革を推進していくうえで、大変助かります。

今後、教員の働き方改革を一層推進してもなお教育環境を維持するためにも、より一層のご助力を期待しています。

これまで以上にボランティア色が濃くなっていく活動になりますが、応援団の皆様には引き続きよろしくお願いいたします。

瑞江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第二中学校長 滝澤 清豪
コーディネーター 川原 晴久

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	14人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書ボランティア	隔月1回程度 月曜日に集まって活動	14人
学校花壇ボランティア	日程の調整がつかず 令和7年度は休止	

学校図書ボランティア



学校花壇ボランティア



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 1 本の修理、本の購入、本の廃棄が計画的にできていることや、蔵書管理システムの導入等により蔵書の管理がしやすくなっている。
- 2 ボランティア活動に参加する機会を得て、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育成できた。
- 3 PTA やOB 会の方とのふれあいを通して地域の一員であることを自覚することができた。
- 4 花壇の美しさが本校の特徴の一つになっている。それを生徒が自覚している。

<課 題>

- ・コロナ禍の終了後、様々な活動が再開されたことで、学校応援団と学校の教員・生徒との日程調整が難しくなっている。
- ・教員の応援団との協働、意識向上を図ること。
- ・活動内容の整理と確認及び新たな取組の模索をすること。
- ・学校応援団と生徒が協同作業の回数が限定的であること。

5 コーディネーターより

学校応援団代表として、学校に協力できることをPTA・OB会の皆さんや同窓生と折に触れて相談してきた。コロナ禍も落ち着いた今、学校との連携を一層密にしながら、教育支援に意欲のある方々を発掘し、学校を応援していきたいと考えている。

また、開校当時に園芸部員として地域の方々と共に作り上げた学校花壇の意味——「静」のゾーンである校舎と「動」のゾーンであるグラウンドとの線引きを象徴するもの——や、学校が開校以来、常に地域と共に歩み、生徒・教職員・保護者・地域の皆さんの多くの努力と情熱に支えられて現在に至っていることを伝えることができた。

学校応援団代表として、花壇ボランティアや図書ボランティアなどの活動に生徒と共に取り組めることを喜びとし、コロナ禍が落ち着いた今、学校応援団の活動がより広く、より活発になるよう、代表として尽力していきたい。

6 学校長より

図書ボランティアの活動では、図書館の整備にご協力をいただき、昼休みの図書館開放には多くの生徒が訪れ、読書に親しむ姿が見られました。一方、花壇ボランティアについては、コロナ禍の収束に伴い、学校行事や地域活動が次々と再開される中で日程調整が難航し、やむを得ず活動を休止せざるを得なかったことは、誠に残念でした。

本校の特徴の一つとして、「校内の花壇に咲く多くの花々」と「学校敷地を囲む草花」が挙げられます。来校者や近隣の皆様からも、たびたびお褒めの言葉をいただいています。応援団の皆様、教職員、生徒が一体となって花壇の手入れに取り組む姿を、一日も早く再び見ることができるよう願っています。

令和8年度は、これらの活動を着実に推進し、地域とともに生徒たちを育てる体制が、さらに強固なものとなるよう取り組んでまいります。今後とも、瑞江第二中学校への温かいご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

瑞江第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第三中学校長 山口 孝
コーディネーター 澤井 茂

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	2人
	学生ボランティア	2人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	毎日	4人
園芸ボランティア	不定期	3人

4 今年度の成果と課題

<成果>

毎日、昼休みに図書ボランティアの方にご来校いただき、図書室の飾りつけや整備等を行って来ています。レイアウトや季節にあった飾りつけ等、生徒が使いやすい環境を整えてくださっています。

また園芸ボランティアでは、本校の部活動とタイアップして、地域の保育園や幼稚園に花の種子を届け、一緒に栽培することができました。大きく咲いたひまわりに園児も生徒も喜んでいました。

<課題>

地域の高齢化が進んだり、仕事がお忙しかったりする中で、ボランティアを募ることが難しくなっています。有償ボランティアという形ならお願ひしやすい側面もあり、運用方法については課題だと認識しています。

5 コーディネーターより

長年続けてくださっているボランティアの方々には心より感謝しております。生徒が生き生きと活動できる環境づくり、地域への拡大など、少しずつですがより良いものになっていると感じています。より活発な活動になるよう、応援して参ります。

6 学校長より

毎日来てくださる図書ボランティアの方には、図書室をキレイに保っていただき心より感謝申し上げます。地域の方ならではのアイデアで、図書室をより使いやすくしてくださっているそのあたたかいお気持ちに本校への愛情を感じております。

また、地域の保育園、幼稚園とは運動会の会場貸出や避難訓練等でも連携しておりますが、今年度からは、花いっぱい運動にもご協力いただき、大きなひまわりを咲かせることができました。秋になっても太陽に向かって真っすぐ咲くひまわりを見るたびに、本校の生徒、幼稚園や保育園の児童の成長と重なり、未来へ向かう生徒たちが希望をもって、自分自身という大輪の花を咲かせるその日まで応援していこうと決意を新たにしております。

今後ともご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

春江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

江戸川区立春江中学校長 横枕 耕史

コーディネーター 原田 仁

2 ボランティア登録数(令和7年12月1日現在)

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	22人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
防災教室の手伝い	令和7年12月6日(土)	10人
図書ボランティア	主に月曜日・金曜日	18人
運動会の警備・掃除	令和7年5月24日(土)	12人
福祉体験の手伝い	令和7年12月12日(金)	12人

【図書ボランティア】



【防災教室】



4 今年度の成果と課題

<成果>

本年度も本校の教育活動に対して学校応援団の方々に多岐に渡ってご協力をいただきました。防災教室では、消防や江戸川区や自衛隊にもご協力いただき、様々な体験の補助や生徒誘導を行っていただいた。生徒が災害を自分ごととして捉える大きな契機となった。図書室のボランティアでは図書の整備、貸し出し補助、自習室開放など図書充実に寄与していただいた。運動会では熱中症予防のためのテント設営、保護者観戦についての会場整理を中心に活動していただき、安全で円滑な運営には不可欠であった。福祉体験では、介助体験などをはじめ、連携補助をして生徒が多様な価値観に触れて、思いやりの心を育む貴重な機会を支えていただいた。上記の支援を通して、学校と地域が連携して生徒を育てる体制が一層強化されたことが大きな成果である。

<課題>

本年度も大変充実していたが、今後の発展を見据えていくつかの課題がみられた。

①活動への参加者が固定化されている。

多くの活動が特定のメンバーに依存しており負担が偏ってしまう面があった。案内を工夫し参加しやすい仕組みをしていく必要がある。

②活動内容の情報共有および役割の周知

防災教室や福祉体験など生徒のサポートが多岐に渡る活動の場合には、事前に活動の流れを共有し、誰もが理解して進めることのできる連絡体制を整える必要がある。

5 コーディネーターより

本年度も学校応援団として様々な活動に関わる機会があり、参加者には心より感謝申し上げます。防災教室や福祉体験など社会性を育む教育に携わり、生徒たちが真剣な表情で学ぶ姿を見ることができ、地域としての役割の大きさを実感した。運動会でも保護者と地域と学校が協力し合って生徒たちの頑張りを支えている温かな雰囲気が見られ、学校と地域が一体となっていたことは大きな喜びである。今後も多くの皆様に活動を知っていただき、学校との連携をさらに深めていきたい。

6 学校長より

本年度も学校応援団の皆様には学校教育の活動のあらゆる場面で温かなご支援をいただき心より感謝いたします。防災教室では地域の方と一体となり活動を支えてくださり、生徒の安全意識が大きく高まりました。図書ボランティアでは読書環境の整備と生徒の読書活動の活性化に大きく貢献していただきました。運動会では早朝よりテントを設営し安全確保に尽力していただき、無事に無事故での実施につながりました。このように学校応援団の皆様は本校の教育力を大きく支えるものであり、地域と学校の一体化を象徴しています。負担の偏り、参加者を増やす工夫など改善すべき点もありますが、地域と共に生徒の笑顔あふれる学びの場を構築していきたい。

鹿本中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

鹿本中学校長 加納 学
コーディネーター 加藤 正人

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	13人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学習補充教室	長期休業中（夏季・冬季）	0人
特別支援学級補助	不定期	0人
図書館整備	不定期	0人
手話通訳	難聴学級「小中交流会」（8月）卒業生 の話を聞く会	2人
餅つき会運営	延期	0人
あいさつ運動	学期1回、一週間 学校公開	PTA活動
心和む 花を！	学期1回	2人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

鹿本中学校の周辺地域は、学校を温かく見守り、応援していただくという伝統的な協力体制があります。その伝統は受け継がれ、現在でも保護者、PTAのOB・OG等の皆様や卒業生の皆様から温かなご支援・ご協力をいただいております。

令和7年度は、美化委員会を中心に、4年前から始めた「心和む 花を！」プロジェクトを推進し、千葉街道に面した敷地内に花を植え、咲かせることができました。美化委員会の生徒達が手入れを丁寧にしたため、予想外に長く咲き続けました。生徒も手ごたえを感じていましたが、総合体育館を利用する方々から「きれい」「歩く楽しみがある」などお褒めの言葉をいただいたことが、何よりも喜びとなりました。これを契機にさらに地域に根差した学校を目指していきます。

<課 題>

ボランティアの登録人数やPTA以外の地域協力者を確保するのが難しい状況があります。平日の放課後に学習教室を手伝ってくれる人材を確保し、学校司書と連携し、読書活動や学習をより一層、活発にしていければと考えています。また、今後、応援団と生徒が協力して校内の整備・美化活動を活発にしていきます。6年前にPTAのOB・OG会が再編成されました。今後は、十分に連携して活動を、進めることが課題です。

5 コーディネーターより

この一年間、鹿本中学校の取り組みにご協力とご支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。応援団は「あくまでボランティア」とは言え、自分の時間・生活を割いて学校に出向いて下さる方々の善意に甘え続けることは心苦しく感じます。

今年度は、「心和む 花を！」プロジェクトも5年目に入り、徐々に地域から認知され、「次は何の花?」「手入れが大変でしょう」などという声を聞きます。関係ある鹿本中学校が地域のために役立ち、評価されていることは、何よりも嬉しいことです。地域や卒業生などの協力を得られるようにさらに努力します。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

6 学校長より

学校応援団の皆様、卒業生の方々、地域の方々、そして、PTAの方々など多くの皆様からの応援をいただきまして、心よりお礼申し上げます。

鹿本中学校には、通常の学級、特別支援学級、難聴通級学級、特別支援教室があります。それぞれ、特色ある教育活動に取り組みながら、お互いを認め合い、励ましあい、高めあって中学校生活を送っています。学校応援団の皆様には、この特色ある教育活動にご支援を戴いております。そのため、教員では補いきれない分野での活動においても十分に取組んでいると感謝しております。今後とも生徒のよりよい自己実現のため、ご指導、ご協力を頂きますよう、よろしくお願ひ致します。

鹿骨中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

江戸川区立鹿骨中学校長 東原 貴行
 コーディネーター 川合 里美

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	30人
	生徒ボランティア	100人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇整備	年3回	52
図書館整備	年4回	15
ポプラ祭り	年1回	67



4 今年度の成果と課題

<成 果>

○花いっぱい運動

学校を花でいっぱいにして「花の街 鹿骨」の伝統を守る。生徒たちが花壇のレイアウトを行い、正門花壇に苗を植えました。花壇を見て元気になった、と地域の方から感想を得ました。

○図書館でのボランティア

図書館支援員と協力し、図書の整備や廃棄本の整理をした。

○ポプラ祭への参加

生徒が企画するポプラ祭の運営に協力した。大盛況であった。PTAとの連携もスムーズになった。

<課 題>

学校応援団の組織の継続と、学校と応援団の間の情報の共有方法について体制を確立したい。

5 コーディネーターより

生徒が自主的に地域や学校のために活動する姿に、感動した。学校や社会がより良くなるように、日々の学校生活を大切にしながらボランティア活動を行う姿が、とても素晴らしいと感じている。今年度も花いっぱい運動で、玄関前の花壇の整備やプランターへの球根植え、を行うことができました。昨年度から再開したポプラ祭の協力ができ、今後も鹿骨中の教育活動の支援をしたい。

6 学校長より

今年度も学校応援団の活動に、コーディネーターの川合様や学校評議員の方々にご支援いただきました。今年度の活動の継続と活動の充実を図りたいと考えています。教育活動には、学校応援団の支援が不可欠であり、引き続きのご支援をお願いしたい。

篠崎中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎中学校長 紅林 兼一
コーディネーター 角皆 和宏

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	25人
	学生ボランティア	3人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
運動会パトロール	年1回	20人
進学に向けた面接練習	年1回	25人
篠中フェスタ	10月	20人
花壇整備	不定期	10人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

【運動会パトロール】

- ・学校応援団の協力で校庭、駐輪場等の見回りを行っていただいた。学校応援団の皆様の協力によって、滞りなく会を進行することができた。
- ・校舎内駐輪場に自転車が入りきらず、校舎外の道路や近隣公園に自転車が駐輪されることも予想されたため、学校応援団の方に協力を依頼し、都営公園を借り上げることで、臨時駐輪場を開設することができた。トラブルもなく、順調に運営することができた。
- ・観戦者の熱中症対策として、一部の冷房施設のある部屋から運動会を観戦できるように開放し、校舎内のパトロールを学校応援団の方に担っていただくことができた。今年度は気温が低かったこともあり、問題はなかった。

【面接練習】

- ・3年生の進学に向けた面接練習の面接官をPTA OB会を中心としたメンバーに行っていただいた。普段指導に当たっている校内の教員ではない地域の方に面接官を行っていただくことで、生徒たちは緊張感をもって練習に取り組むことができ、自らの進路の実現に向けて進めていく上で一助となった。

【篠中フェスタ】

- ・篠崎中学校関係者だけでなく、近隣小学校PTAやOB会、おやじの会等が、出店や出し物など地域一丸となって協力していただくことができた。地域の連携を確認できた行事となった。

【花壇整備】

- ・卒業式に向けて正面玄関の花壇整備を行う。今年度は2月下旬に実施予定である。

<課 題>

- ・学校応援団の人材の確保や平日の日程調整が難しい。
- ・教職員との連携を一層充実していくことが必要である。

5 コーディネーターより

- ・学校応援団として、地域と学校のかげ橋となれるよう様々な協力を行っていきたいです。
- ・今後も引き続き、地域性の温かさや篠崎中学校が地域から愛されていることを大切にしていきたいと思っています。

6 学校長より

- ・学校・保護者・地域の願いが、「誇れる母校」を目指し、地域の一員として自覚をもてるように育てています。今後もネットワークをさらに広げ、強めることにより生徒のために充実を図っていきたいと思います。
- ・本校は、令和6年度に江戸川区のコミュニティ・スクールモデル校として、地域住民等と学校が力を合わせて学校の運営に取り組む体制づくりを行ってまいります。来年度以降についても学校応援団の皆様には、学校と地域をつなぐ重要な役割を担っていただくこととなるかと思っております。今後とも御協力のほどよろしく申し上げます。

篠崎第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎第二中学校長 蓮沼 祥之
 コーディネーター 平田 桂

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
入学・卒業式支援	4・3月	10人
運動会・文化祭実施支援	5月・10月	20人
学校公開受付支援	年間4回	20人
地域清掃支援	年間2回	5人
篠二プラザ開催支援	10月	10人
環境整備	不定期	5人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

【活動】

- ・ 5月実施の運動会、10月実施の文化祭での、自転車整理や受付業務の手伝い及び保護者への応援・鑑賞マナーの呼びかけ。
- ・ 10月に実施したPTA主催の「篠二プラザ」における、模擬店の運営協力。
- ・ PTA主催の「ボランティア清掃」へのお手伝い。
- ・ 年間4回の学校公開の受付補助。
- ・ 不定期で行った校内環境整備。

<課 題>

- ・ ボランティアの方の大半が、本校PTAのOB・OGである。年々高齢化が進みボランティアへの参加も困難な状況である。昨年度よりも早めにスケジュールを出し調整はしたものの、解決策としては不十分である。
- ・ 学校応援団の活動や計画そのものが、主に学校発信となってしまっている。

5 コーディネーターより

応援団の皆さんには、公私ともに大変ご多用の中、それぞれが都合のつく時間で活動をしていただいております。各行事やボランティア活動もコロナ禍以前と同等の活動とはいかないまでも、新たな方策を試行錯誤しながら、様々な活動や体験を積極的に行うことができました。これは大変喜ばしいことであり、生徒にとっても貴重な体験となったことでしょう。

しかし、課題であったメンバーの若返りについては、募集は行っているものの、中々新たなメンバーの加入までには至っていないのが現実です。学校の現状を知る意味でも、学校行事への積極的な参観を募り、生徒のために学校や保護者、地域が一体となって、来年度以降も皆さんと一緒に篠崎二中を盛り上げていきたいと思っております。ご協力のほどよろしく申し上げます。

6 学校長より

コロナ後の新たな取組や行事などが徐々に再開し、生徒の活躍の場を設けていただいていることに日々感謝しています。

教育活動も充実してはいるものの、さらなる活性のために、日々活動の見直しと改革を推進していく必要があると感じています。

今後も、学校応援団の皆様のご協力やご支援を一層賜りながら、本校生徒の成長のため連携を深めて参りたいと考えています。

小岩第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第一中学校長 青山 昭広
 コーディネーター 山辺 登

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	15人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花いっぱい運動	学期末・不定期（水やりは毎日） 植え付け・新校舎受付周辺の美化	延べ20人
あいさつ運動	生徒の健全育成のためのあいさつ運動 (朝・行事前や学期はじめと終わり毎 交代制)	延べ30人
三校一園合同音楽会応援	楽器搬出入、運搬作業、11月3日	延べ10人
地域ふれあい面接	3年生の入試、社会マナーについて面接 試験の指導（10月～11月）→本年度イン フルエンザ感染拡大防止による休校 で中止	延べ15人予定
キャリア教育・職業講話 等	身近な方の職業について聞く会の運営 協力 12月	延べ5人
新校舎引っ越し応援	プレハブ校舎から新校舎への引っ越し 作業の環境整備と、PTA活動室の充実、 生徒用玄関、昇降口美化活動清掃活動	延べ30人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

一中 PTA 活動の一環に位置付けしている学校応援団の令和 7 年度の活動はいよいよ新校舎への引っ越し等の環境整備等、令和 7 年度限定の活動もあり、充実していました。令和 6 年度と変わらず、「無理なく楽しく負担なく」をモットーに行事で来校した時に呼び掛けたり、保護者会等で宣伝したり、応援団のメンバーが当日のボランティアをさらに呼んで輪が広がり活動が充実しました。新校舎への引っ越しの応援では、生徒を迎えてもたくさんの紙ごみや引っ越し後の段ボール箱が残ってしまっていては良くないということで北側の校舎の段ボール箱を運んでいただきました。殺風景だった校舎回りにさっそく夏、秋から冬を迎えても咲き続ける花をたくさん植えてくださり、プレハブ校舎からのプランターも含め植栽部近くにも姫リング等の管理をしてくださったおかげで、しっかりと身がなり、登下校の生徒たちが喜んでいました。地域ふれあい面接は一中の 3 学年閉鎖に伴い今回は面接官に高齢の方が多いので泣く泣く中止にいたしました。非常に残念だったと団員からのお言葉があり、改めて地元応援団の協力と熱意に感謝の気持ちでいっぱいです。12 月には職業講話が行われました。応援団の方に紹介していただき、小岩駅前郵便局長様と北小岩のお寺のお住職様に講話をいただくことが出来ました。当日講話を聴き、1 年生は 2 年生の職業体験への期待感があふれてきました。

<課 題>

応援団の方々世代交代で入れ替わるのはとてもいいことですが、反面、人数が増えないということや、時間が限られてしまい、集まり状況が行事によって偏ってしまうという現状もありました。令和 7 年度の大きな地域行事「三校一園合同音楽会」の運営は本校が幹事校として行われました。地域小学校との直接交流を望んでいたため、応援団の方に交渉をお願いしました。結果的には直接交流をするには年齢差や時間的な問題が大きく、これからの課題が来年度持ち越しとなりました。応援団の方々との協力し令和 8 年度こそ小中連携直接交流ができ、活動の場を広げるというのが課題です。令和 8 年度は 7 年度にインフルエンザできなかったふれあい面接を行いさらに次の年度へも引き継いでいきたいです。

5 コーディネーターより

小岩一中学校は令和 9 年度に開校 80 周年を迎えます。そのことを踏まえながら、令和 7、8 年は活動をしていきます。本校の応援団の活動は保護者、PTA 役員の方々、OB や同窓会などの地域の皆様といった本校にかかわりのある皆様にご参加いただき、支えていただいております。今年も様々な行事に参画し、充実した活動ができました。無理のない範囲で、長く継続でき、生徒たちが成長できる環境を作り、活動をサポートしていきます。新校舎の移動もスムーズで、9 月一週目に新校舎見学会を行いました。

6 学校長より

本校の目指す「みんなが幸せになれる学校」の実現のためには学校、家庭、地域が力を合わせていかなくてはできません。本年度も保護者、PTA 役員、PTA 役員 OB、同窓会や町会等地域の皆様にも多数の方々の応援をいただきました。心より御礼申し上げます。今年度「地域ふれあい面接」がインフルエンザ感染防止の学級閉鎖で中止となり非常に残念でした。講師を引き受けてくださった応援団の方々、ありがとうございました。今年の 1 年生対象「職業講話」は 1 年全員が少人数 2 グループに分かれ勉強させていただきました。応援団の方に講師を紹介していた抱きお願いしたところ、快く引き受けていただきました。ありがとうございました。さらに学校、家庭、地域が協力した行事が増えていくことを願っています。今後も生徒の健やかな成長へのお力添えをよろしく願いいたします。

小岩第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第二中学校長 高萩 広志
 コーディネーター 尾崎 友信

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	24人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花の栽培・ 高齢者施設への寄贈	11月 花の栽培 2月 高齢者施設への寄贈	2人
岩二祭	10月4日	20人
受験講座	11月～2月	2人

岩二祭



花の栽培



美化ポスター



4 今年度の成果と課題

<成 果>

【花の栽培・高齢者施設への寄贈】

- ・今年度も、前校長先生が栽培した花を柴又街道沿いの花壇に植えました。様々な種類の花を植え、季節によって色鮮やかな花が咲き、地域の方々にも喜ばれています。また、生徒が作成した美化ポスターを掲示することで、花壇へのゴミの不法投棄が減りました。栽培した花を高齢者施設へ届ける活動を今年度も行いました。施設利用者の方々にも喜んでいただけたようです。参加した生徒は、とてもやりがいを感じたようです。

【岩二祭】

- ・本校PTA主催の「岩二祭」を本校校庭で実施しました。PTAの方々を中心に、模擬店やゲームを用意していただきました。また、地域の有志の方々の太鼓の演奏を披露していただきました。多くの近隣の児童や生徒が来校し、子どもたちにとっても楽しいイベントになりました。ボランティアとして参加した本校生徒も、前日準備から当日の販売のお手伝いなど、多くの場面で活躍しました。

【受験講座】

- ・3年生を対象とした受験講座を実施しました。11月からの火曜日（数学）・水曜日（英語）の授業には、計20名の生徒が参加しました。それぞれ教科の講師の先生方には、熱心に授業をしてもらいました。生徒も毎回一生懸命に学習に取り組んでいました。

<課 題>

- ・花壇の整備についてはもっと多くのボランティアによって担ってもらえればと思います。来年度は本校生徒や地域の方にも広げていければと思います。

5 コーディネーターより

今年度も予定通りに多くの活動を実施することができました。江戸川河川敷清掃ボランティアやHand in Handなどの現在行っている多くのボランティア活動とともに、今後もさらに学校と地域の関わりが活性化されることを期待しています。来年度も小岩二中の生徒のみなさんとも楽しく活動をしていきたいです。

6 学校長より

今年度もお陰様で予定通りに学校応援団の活動を実施することができました。ボランティアの輪をこれからも維持・拡大するとともに、保護者・地域の皆様方との連携をさらに深めてまいりたいと思います。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

小岩第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第三中学校長 山田 人也
コーディネーター 渡邊 哲也

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	50人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
廃品回収	年4回	50人
菜園・植物管理指導	年10回	1人
面接指導	年1回	10人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

生物環境部の活動は、学校応援団の方々の技術指導により、屋上菜園での野菜づくりで多くの収穫を得られ、また学校敷地内の植物管理において、生徒は達成感を感じることができました。また、受験期の3年生を対象とした面接練習の面接官を地域の方々をお願いしています（1月中旬実施予定）これらは「心の教育」を重視している本校の大きな特徴の一つとなりました。団長（コーディネーター）を中心に学校の環境整備にも計画的に取り組むことができました。本年度は屋上緑地の整備作業、菜園で行った野菜作り、花の栽培などを通し植物育成の理解を深める、収穫した作物を味わうなど、生徒たちの生活を営む基礎的な力につながりました。

<課 題>

サポーターとしての大人の募集や維持費の捻出が課題です。令和8年度もさらなる活性化を図りたい所存です。

5 コーディネーターより

私が学校応援団として活動するきっかけは、屋上緑化のお手伝いでした。活動を進めていくうちに生物環境部のお手伝いをするようになりました。

生徒達と過ごす時間はとても楽しく、最初は土いじりに消極的だった生徒も自然と触れ合っているうちに、楽しく積極的に活動に参加するようになっていく姿を見ると本当に嬉しくなります。収穫を喜び、料理を作って味わい楽しむなど、楽しみがたくさんある反面、夏の暑い中での水やり・草取り・芝刈りなど、大変なこともたくさんあります。

微力ではありますがこうした活動のお手伝いをするにより、生徒たちをより身近に感じながら学校の環境を整えることへ繋がれば、これほど嬉しいことはありません。

学校応援団では、自然との共存する活動の他に部活動や学校行事の取り組みのお手伝いもしています。少しでも学校の力になりたいと思っている地域の人々と、学校教育をより充実させたいと考えている先生方の思いがつながり結成された学校応援団、このような温かい気持ちのつながりが充実した学校環境をつくり、その気持ちが子供達へ伝わっていくことを願いつつ、これからも活動していきたいと思えます。

6 学校長より

本校の学校応援団の取り組みは、今年度で15年目を迎えております。取り組み内容にありますように、様々な活動を展開しており、学校の教育環境の充実や生徒の心の充実、という目的に叶ったプロジェクトになっています。本校では、校舎屋上での野菜作りや植物栽培・学校内外の環境整備、進路指導の一環である地域の方々と面接官とした面接練習が主な活動となっていますが、応援団の方々には生徒の活動を支える大きな力になっていただいています。また、部活動や学校行事にも応援団の方のお力添えをいただいております。何より

も、生徒たちが屋上の野菜や植物、生物を大切に育て、見守りながら自分たち自身の心を育ててくれていることが大きな成果です。

これからも、保護者や地域の方々のご協力ご支援を得ながら有意義な学校応援団の活動を続けていきたいと考えています。

小岩第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

江戸川区立小岩第四中学校長 鈴木 訓文
 コーディネーター 若松 喜美子

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	9 人
	学生ボランティア	0 人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花の植栽（水やり）	年2回（不定期）	3 人
ふれあい面接	年1回	2 人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 学校行事のタイミングに合わせて、季節の花を植えていただきました。また、休日や長期休業中には、水やりもしてさせていただきます。校門付近の花壇で咲いている花が、学校を訪れたお客様の目に留まり、おもてなしの一助になることを願っています。
- 進路学習の一環として、地域の方に面接官を依頼し、面接指導「ふれあい面接」を実施しています。対象は、第3学年生徒のうち、面接試験のある生徒や面接練習を希望する生徒です。生徒は学校外の方にご指導していただくとより緊張するようで、真剣に取り組んでいました。

<課 題>

- 学校応援団の方と生徒が協力して行う活動はできませんでした。放課後は部活動や放課後補習教室などの予定があるため、地域の方と生徒が無理なく活動できる計画を練ることは大変難しいです。
- 学校応援団について、教職員、生徒、保護者、地域の方からの認知度を上げ、興味を持っていただき、その活動（応援）を活性化させることが課題です。学校だよりや学年だよりに活動を掲載しましたが、その他の方法でも周知していきたいと思います。
- 教員の異動により学校の担当者が変わっても、活動を継続できるような組織を目指します。

5 コーディネーターより

長い間、学校応援団として花の植栽や水やりに携わってきました。玄関前にあるスロープの場所がかつて花壇で、そこで菊を育て文化祭でお披露目していたのが懐かしいです。コロナ禍以降、花の植栽などは少人数で行っています。子どもが卒業してから大分経ちますが、気が置けない仲間と楽しく活動しているので、先生方が変わられても続けていくつもりです。

ふれあい面接は、中学生と直接お話することができる貴重な機会とお聞きしています。

今後も、地域に根差した「学校応援団」を目指して、学校のニーズに合わせ幅広い支援の輪を広げていきたいと考えています。

6 学校長より

コーディネーターをはじめ学校応援団の関係者の皆様には、ご多用にも関わらず、今年度も花の植樹やふれあい面接など、学校のためにご尽力いただき、大変感謝しております。

本校では、生徒の健全育成の場として、地域の皆様と生徒が触れ合う機会を大切にしています。そのような活動をさらに推進していくためには、学校応援団の皆様のご協力が不可欠です。引き続き、来年度以降も本校の応援をよろしくお願い致します。

小岩第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第五中学校長 前本 大智
 コーディネーター 前場 利彦

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	9人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校農園	通年	4
五中池	通年	7
高校合同相談フェスタ	7月12日(土)	6

【栽培体験】学校農園で野菜（タマネギ・冬瓜）を収穫



タマネギ



冬瓜



冬瓜の煮物でおいしく
いただきました



4 今年度の成果と課題

<成 果>

① 【学校農園について】

長ねぎについて、昨年度は7月に生徒とともに収穫作業をしましたが、今年度は酷暑のため(ねぎも不作であったため)中止しました。3学期に実施できるか調整中です。

その他、毎年恒例の玉葱(5月中旬)と冬瓜(9月~10月)は学校応援団の小宮さんより収穫したものを給食で提供しました。特に冬瓜は豊作で、10月いっぱいまで数回にわたって提供することができました。

9月30日(火)の給食では、翌日10月1日(水)の「都民の日」に関連した“東京都の食材・料理”がテーマの献立を提供しましたが、定番の「冬瓜の煮物」として取り入れ、自校の学校農園で収穫した食材として紹介しました。

② 【五中池】は今年度応援団のメンバーを中心に全ての水を抜いて入れ替えながらの大掃除を行い、新たな仲間(鯉)も加えました。生徒(ボランティア部)が毎日エサをやり、みんなで協力しながら美しい環境を大切に守っていきたいと思います。

③ 【高校合同相談フェスタ】については、コロナ禍を越え4年連続で元の規模に少しずつ戻しながら開催しています。今年度は登録ボランティア以外にも総勢50人近くの方々に関わっていただきました。この活動は生徒の今後の進路選択の幅を広げるよい機会となっており、子どもたちも保護者の皆様も意欲的にブースを回り相談している様子が見られました。

<課 題>

【学校応援団】というものを知っていただき地域の人的資源を有効に活用できるよう、そして持続的な活動を行えるよう人材確保が今後も課題です。

5 コーディネーターより

コロナ禍前の、従来に近い活動を再開できるようになっている。学校応援団としましては実際に生徒・教職員の皆さんと対面して活動することに意義があると考えているので、地域としてのボランティア活動が生徒の皆さんの健全育成をどのように応援できるかをあらためて意識しつつ、今後さらに学校のお役に立てるよう、積極的に取り組んで参りたいと思う。

6 学校長より

応援団の皆様にはいつもお世話になっております。池や畑、花壇など学校の周りの小さな自然は学校応援団の皆様が支えてくれています。皆様のお力に支えていただいているこの活動は、成長期である子どもたちにとって大変ありがたいことであると思っております。

応援団の基本である「学校」「家庭」「地域」が共有・協働するというモットーは地域に根差す学校の今後においてとても重要な取組であると考えます。日々のご尽力に感謝申し上げますとともに、引き続き応援団の皆様のお力添えをいただけますよう、お願い申し上げます。次第です。

上一色中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

上一色中学校長 飯田 剛
コーディネーター 小川 憲和

2 ボランティア登録数（令和7年12月1日現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	17人
	学生ボランティア	3人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花いっぱい運動	年3回	3人
図書整備、図書館管理	不定期	3人
行事支援	不定期	10人
部活動支援	不定期	4人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

開校 62 周年を迎え、環境整備や施設を大切にすることでボランティアマインド、奉仕の精神を育むことを目標にしています。そのため、本校では花いっぱい運動では、季節を感じさせる花々を花壇やプランターいっぱいに咲かせ、花あふれる学校を創っています。また、校内清掃ボランティアでは、協働する大切さ、学校・地域を愛する心の育成、団結・協力による集団活動の活性化を目標にしています。

また、今年度は地域のボランティア活動にも積極的に参加するようになり、毎学期行っている校内ボランティア清掃の実施に加え、地域の防犯活動や防災訓練、祭礼等にサポーターとして参加し、充実した取組を行うことができました。今後は生徒会活動と関連付けて生徒と、学校応援団、地域の方々と協同して町会の行事や近隣の施設の奉仕活動などへの参加を、生徒会活動とも連動させて呼びかけていきます。

<課 題>

本校では、近年、学校応援団の方々が仕事や他の活動で忙しかったり、学生等の偏った人材が多く、生徒の活動に関わる新規の人材の確保が課題としてあげられます。今年度は、自校での花いっぱい運動、学校図書館の環境整備や、それに加えて校外の祭礼での補助やボランティア活動に力を入れてきました。

しかし、地域に関わりをもち、学校にも積極的に来校くださる地域の人材となる学校応援団の人数が少なく、計画的に実施できなかつたことが課題です。

今後も学校応援団の募集活動を PTA 活動や学校評議員とも連携して行っていきます。生徒と教職員・保護者・地域が一体となって取り組める、現行の花いっぱい運動や学校図書館ボランティア等の環境整備活動や小学校・地域の自治会とも交流して輪を広げていき、地域の活力となる学校、子どもたちの育成に励み、地域の活力となる学校応援団を目指していきます。

5 コーディネーターより

部活動や学校行事に積極的に取り組み、エネルギーみなぎる上中生を見るとこちらも元気になります。学校を訪れると、必ず廊下で何人もの生徒から「こんにちは」と挨拶され、学校での教育活動により、充実した生活を送れていることが、とても喜ばしく、何か学校応援団としてお手伝いできることはないか、いつも考えさせられます。

毎年、自然災害に襲われ、学校や地域の防災活動、奉仕の精神は一般社会や学校の教育活動でとても重要な位置付けになります。被災地に赴くなどのボランティア活動も素晴らしいことですが、地域の身近な場所での奉仕も極めて大事なことと考え、ためらうことなく積極的に活動できる子どもたちの育成が求められます。本校の学校応援団の目標は次の三つを挙げています。応援団事業に関わる学校、保護者、地域が一体となって地域を盛り上げていきます。

- ・ 地域の方のご協力、PTA 活動との連携により子どもたちへの指導がより専門的かつ効果的に行えること
- ・ 教育活動の活性化により、子どもたちの学習に対する意欲の向上、「生きる力」の醸成が見られること
- ・ 地域とのふれあいが増えることで、学校以外で、地域の方と交流をもち、挨拶を交わす関係になること

6 学校長より

本校の学校応援団の方々には、大変ご多忙の中、応援団事業に時間を作っていただき、また多大なるお力添えをいただき誠にありがとうございます。様々な教育活動にご尽力いただくことで、生徒はもちろん、教職員や保護者も協同して参加することで、地域に誇れる学校の構築が実現されています。改めて感謝申し上げます。今後も本校の教育方針である「心の教育」の充実、「文武(部)両道」の実現のため、また生徒の「自己肯定感」「自己効力感」「自己有用感」を高めていくため、ご支援・ご協力のほどよろしく願いたします。